

魔法の宿題 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 儀間正直

所属: 沖縄県立泡瀬特別支援学校

記録日: 2016年2月26日

キーワード: 肢体不自由、運動機能障害、コミュニケーション、表現活動

【対象児の情報】

○学年 小学部3学年 / 9歳

脳原性運動機能障害、四肢の運動機能障害により筋緊張や不随意運動があり、生活の全てにおいて支援を必要とする。

○障害名

肢体不自由

○障害と困難の内容

- ・手指の動きの困難さから、筆記やタイピングで文章を作成することは困難である。
- ・文章を書く際には、児童の言葉を教師が代筆している。
- ・会話のコミュニケーション能力に比べて、文章で表現する能力や出来事の発表などに、やや幼さを感じる。手紙や日記を書くなど、文章を考える経験が不足している。
- ・自分の伝えたいことをうまく言葉で表現できないことがある。
- ・周りのことをよく気にする児童であるため、教師や支援者に気を使って、自分の都合よりも相手に合わせる傾向がある。
- ・質問に対してうまく答えられなかったり、答えてはいるが伝えたい内容がうまく伝えきれていない状況がある。

【活動目的】

○当初のねらい

- ・「自分の気持ちを相手に正しく伝える表現の方法を身につけること」
- ・「主体的に活動することの楽しさや成就感を知ること」

○ねらいの背景

本児は普段の会話や自分の気持ち、思いを発表する場面において、やや幼さを感じたり、正しく表現できず間違っって伝わることもある。そのため、教師や友達との会話がうまくいかないことも見受けられた。自ら文章を考えたり、手紙を書くなどの経験の不足によるものだと考える。

本児は、学校の教育活動の中でも受動的な場面が多いため、その場の雰囲気に合わせて答えるなど、自分の言葉で気持ちを表現する活動は少なく苦手である。

そこで、今回、自ら文章を考えたり、手紙を書くなどの経験をする機会を設けるようにした。これらの経験を積むことができれば、現在、気持ちを表せなくて困っていることやうまく伝えられないことを言葉として表出し、解決するための能力が身につけられると考えたからである。本児の困難さをカバーできるようにiPadを活用していくことにした。

○実施期間

平成27年4月～平成28年2月

○実施者

報告者: 儀間正直

○実施者と対象児の関係

学級担任。全科その他教育活動や学校生活の行動全てを担当する。

(週2時間専科自立活動を担当する教諭がいる)

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

- ・文章を考える場面が少ない。(日記など自ら文章を考える課題を代筆してもらえる時間の確保が難しい。)
- ・「しかし」「それから」など接続詞の使い方が定着していない

例→「その映画は「ミニオンズ」です。楽しかったです。で、ポップコーンを食べました。」

「それから」を使う場面でも「・・・で」を活用し、文章を続けるのでつながりがわかりにくい。

- ・「～の」や「～を」などの助詞を正しく使えない。

例→今日、おばあちゃんがながさき県に帰ってきて・・・

「～から」を使う場面でも「～に」を活用してしまうと、意味が逆になってしまう。

- ・間違った表現をしてしまうために、伝えたいことが上手に話せない。

例→本児の日記より

「昨日は、ともおじさんがめんどうをみてくれました。(1)仮面ライダーの遊びました。楽しかったです。で、今日ひーろーにーがアメリカに帰ってきて、お土産を持ってきた。グミを持ってきました。(2)ちょっとアメリカのグミです。強矢はグミはおいしかったです。でも、お母さんが文句いっていたので残念でした。」

※ (1) 「仮面ライダー(ごっこ)の遊びをしました」と言いたい。

※ (2) 「ちょっと」ではなく、なにか物珍しさを表現したのだと推察する。

○活動の具体的内容

iPad アプリケーション「瞬間日記」を活用し、動画により毎日、口頭でその日の出来事を話す音声日記の宿題を行った。

<瞬間日記>



メリット

- iPad のアプリケーションなので、手軽に持ち帰ることができる。
- 動画で記録することができる。
- 記録した時間がわかる。
- 日記をつけた日がカレンダーで一目できる。



① iPad を机の上にセットする (バーストショットで調整できる位置に置く)

② APP を開き、撮影モードにし、インカメラで録画ボタンを押す。

③ その日の出来事をカメラに向かって話す。(児童のペースで主体的に音声日記を話すことができる。)

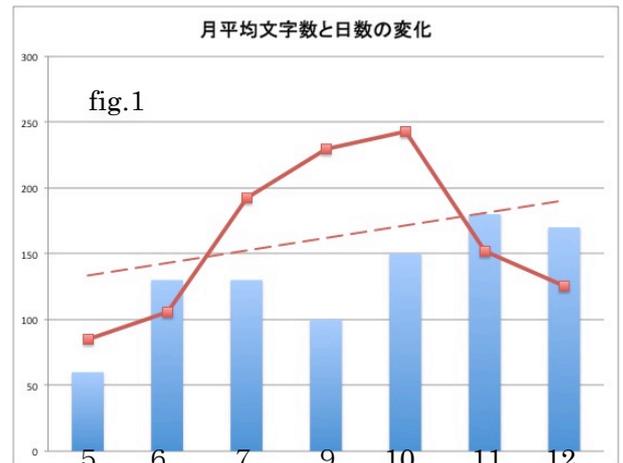
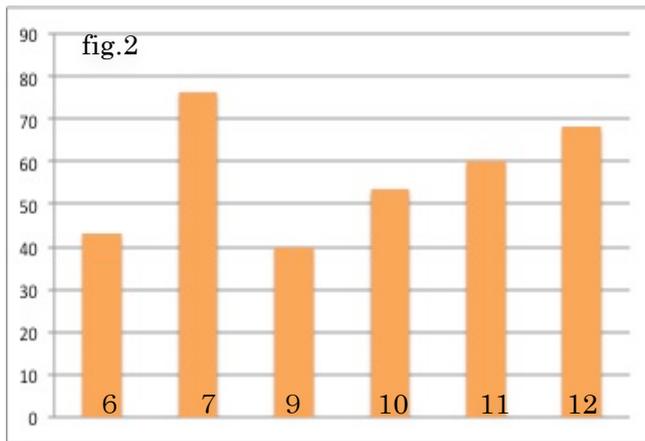
④ 録画を終了する。

①、②、④は保護者の支援を必要とするが、③に関して児童が主体的に文章を考える機会ができる。このように、ゆったりと自分のペースで文章を考える機会が持てることで、思いを伝えることと真剣に向き合うことができた。

②文字数と日記をつけた日数の変化

fig.1：月別の文字数の平均の比較（赤の折れ線）と月別の日記をつけた日数×10（青の棒グラフ）

fig.2：月別の日記をつけた日数／月日数×100（※8月は夏季休業のため除く）



【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

① 日記が習慣となり、「日記の文字数」、「文章量」、「日記をつけた日数」に変化がみられた。

- ・日記をつけ始めた当初から、文字数と文章量は増えていったが、毎日の日記の課題に慣れたことや体調不良、家庭の事情などにより月間での文字数には増減がある。
- ・日記をつける意識が高く、週5日、日記をつけてくる月もみられた。

② 日記の（文章の）表現に変化がみられた。

- ・「それから」や「次に」などの接続詞をうまく使えるようになった。
- ・好きな事柄を説明したり、感じたことを言葉に表す表現が増えた。

（例） 「夜の7時から逃走中がやります。今回のエリアは・・・」

○エビデンス（具体的数値など）

・「それから・・・」や「次に・・・」のような表現は毎回のように活用されるようになり、以前よく使われていた「・・・で、・・・」に比べ、文章の読みやすさ（相手へのつたわりやすさ）が向上している。また、間違った表現はほとんど見られなくなり、デイサービスやったゲームの説明してくれたり、学校行事へ向けての意気込みなどを上手に表現できるようになった。しかし、助詞の使い方については定着がまだ十分ではなく、時折誤った使い方をしてしまうことがある。

・朝の会での発表に、自信がつき、積極的に前に出るようになった。

日記をつけ始める以前は、発表の時間にもじもじしたり、「発表はありません」と発表に対して消極的であったが、毎日日記をつけていることで事前に話す文章を考える機会ができ、朝の会ではほぼ毎日発表できるようになった。発表できるようになったことで「○○さん、質問ないの～」など得意げな言葉や表情がでてきたことから、本児が成就感を感じている様子が伺える。



- ・本校国語科教諭に日記を読んでもらい「日記を書いていくにつれ、語彙が増えていることや表現が変わってきていることがわかる」。という評価を得ることができた。

○その他エピソード（画像などを含めて）

- ・ iPad を活用して学習ドリル（国語、算数）に取り組んだり、校外学習にて app「声シャッター」を活用して、好きな動物の写真を撮るなど。今まで主体的に行うことができなかった活動を行うことができた。また、前年度より取り組んできたデジタル教科書を活用しての学習も継続しており、今年度は魔法のプロジェクトの協力のもと、家庭へ持ち帰っても教科書を読んだり、問題を解くことができています。
- ・ 「反省しなさい」と私に注意された日の日記に、「反省の意味がわかりませんでした（実際には「反省ってどのようにするのがわからなかった」だと推察する）。」ということがあり、私自身反省すべきことを発見できた。このように本人の本音が言える機会にもなっていることがわかった。

○今後の見通し

- ・ 継続して日記の宿題に取り組み、フィードバックを受けることにより助詞の活用も上手になり、気持ちを表現する方法も増えるであろう。
- ・ 教師や友達との会話がスムーズになる。
- ・ 動画で表現することができるようになれば、SNS を活用してコミュニケーションの幅がさらに拡張していくことが期待できる。
- ・ 次年度担任への引き継ぎ今回のプロジェクトの経緯の説明と今後の取り組みについて話し合う機会を設ける。
- ・ iPad をライフスタイルのツールとして活用し、学習だけでなく様々な活動に生かすことができると感じる。